

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
平成29年度自己評価表

評価基準  
4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

1. 教育理念・目標

| 担当   | 評価項目  | H29評価 | H29達成状況  | H30に取り組むべき課題等                                     |
|------|---|-------|--|---|
| 林副校長 | ・教育理念等を明文化しているか。<br>・教育理念等を教職員に対して周知徹底を図っているか。<br>・教育理念等を公表しているか。 | 4     | ・本校パンフレットにて周知している。<br>・Webサイトにて公表。入学者および保護者には入学ガイダンスにて周知している。<br>・在校生・教職員には学生手帳を配布している。  | ・特になし   |
|      | ・教育目的・目標、教育計画が文書化され、提示されているか。                                     | 4     | ・カリキュラム、シラバスを作成し、よりわかりやすい形で学生に提示している。<br>・カリキュラムは、臨床実習施設にも配布。<br>・シラバスはWebサイト「本校のHP」から時間割と共に閲覧可能。<br>・本年度、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについて、HP上で公開した。 | ・本年度は、PT・OT養成施設指定規則の改訂が予定されており、改訂に応じた変更について対応していく |

2. 学校運営

| 担当                          | 評価項目                                 | H29評価  | H29達成状況  | H30に取り組むべき課題等  |
|-----------------------------|--------------------------------------|--|--|--|
| 林副校長                        | ・理事会、運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に開催されているか。 | 4  | ・理事会、岩崎学園管理職の会議、本校教務部会議・学科会議・各業務会議・朝礼を開催。加えてグループリーダー会議が加わった。 | ・特になし  |
|                             | ・事業計画が定められているか。                      | 4  | ・年度ごとに定めている。   | ・特になし  |
|                             | ・予算・収支計画は有効かつ妥当であるか。                 | 4  | ・有効かつ妥当に運営できている。   | ・特になし  |
|                             | ・就業規則等は定められているか。                     | 4  | ・定められている。  | ・特になし  |
|                             | ・教職員一覧表(採用年、資格、年齢、学歴等記載)はあるか。        | 4  | ・学校基本調査に合わせて年に1回更新している。                                      | ・特になし  |
|                             | ・業務分掌は適切か。                           | 3  | ・年度ごとに各業務担当(図書・備品、国家試験対策、学校行事、臨床実習、FD)を決定し、遂行している。           | ・本年度より、いくつかの係りを委員会とし、その職務権限を強化している。<br>・事務局のマンパワー不足への対応が必要 |
|                             | ・人事考課は制度化されているか。                     | 4  | ・夏冬賞与時、年度末実施。  | ・特になし  |
|                             | ・出退勤が適切に管理されているか。                    | 4  | ・タイムカードまたは出勤簿、届出を月次管理。                                       | ・特になし  |
|                             | ・公印が管理されているか。                        | 4  | ・「公印簿」に記載。   | ・特になし  |
|                             | ・教職員の健康診断を実施しているか。                   | 4  | ・年1回実施(平成30年度は実施済)。  | ・健康診断は平成30年4月3-4日に実施済み                                     |
| ・情報システム化等により業務の効率化が図られているか。 | 4                                    | ・学籍管理、成績管理、証明書発行、学生募集等システム化。学生に配布するシラバス・教材等はネットワーク上サーバにてアクセス可能にしている。 | ・平成29年度より学園共通データベース運用をスタートし移行中である                            |  |

3. 教育活動

| 担当 | 評価項目   | H29評価 | H29達成状況  | H30に取り組むべき課題等  |
|----|--|-------|--|--|
| 中村 | ・シラバスのとりまとめと学生への周知はできたか。<br>・シラバスの活用方法について情報を収集し、検討したか。  | 3     | ・開講前に各教室にシラバスの冊子を配置し、学生ネットワークに時間割と共に開示した。<br>・配置時に、各科目担当教員や担任より学生への周知・活用を依頼した。   | ・専門大学化の状況も見据えて、ネットワーク上での公開について検討する。<br>・平成30年度よりシラバスのフォームを一部改訂した。  |
|    | ・育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか。  | 4     | ・総単位PT123・OT120単位(指定規則93単位)。教育課程および授業時限数、学則は所管の神奈川県厚生労働局に提出済である。<br>・2020年4月入学生から適用になる指定規則における改定の概要について把握した。   | ・新設された「社会の理解」の準備、必須された「地域包括ケアシステム」、「栄養、薬理、画像診断学、救命救急学、要望等の基礎」などの限カリキュラムとの照らし合わせを進める。<br>・追加された訪問、通所リハ1単位の準備を進める。         |
|    | ・カリキュラムは事前に学生に周知しているか。   | 4     | ・入学生には入学オリエンテーション時に配布し、説明を行った。   | ・平成30年度も同様に実施済み。   |
|    | ・カリキュラム作成に高校生の現状を反映させているか。   | 4     | ・学生募集イベント「体験入学」にて入学前の高校生に実施している模擬授業等から高校生の現状を把握している。<br>・入学試験時の個別面接をにおいて、生活習慣、学習習慣、社会適応力などについて聴取し、必要なカリキュラム改定を実施している。<br>・教職員3名が県立高校4校(横浜南陵・瀬谷・二俣川看護福祉・金沢総合高等学校)にて評議委員を務め実情を確認した。<br>・平成29年度から開始した任意の入学前学習の科目を、平成30年度入学生から選択肢を広げ、学生が受講しやすした。 | ・平成30年度も同様に実施する。<br>※ 評議委員担当校は3校(横浜南陵・瀬谷・金沢総合高等学校)<br>・高校での出張授業においても、高校生の現状を把握する。  |
|    | ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。  | 4     | ・学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会にて、情報を収集した。<br>・臨床実習訪問時に、「卒業生に対する意見」や「求められる人材像・具体的な技術・知識」について情報収集した。<br>・関連分野の非常勤講師と意見交換を実施した。<br>・臨床実習訪問時に、卒業生の状況、学校への評価などについて随時聞き取り調査を実施している。  | ・平成29年度と同様連携していく。<br>・指定規則改定に伴うカリキュラムに関して具体的な準備を進める。   |
|    | ・社会のニーズや学生の質に合わせたカリキュラムの見直しができるか。  | 4     | ・指定規則改定の情報収集を行った。  | ・指定規則改定に伴うカリキュラムに関して、新設科目に対する準備、必須化された項目に対する現行科目との照らし合わせ等具体的な準備を進める。   |
|    | ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。   | 4     | ・シラバスに記載・学生へ周知している。  | ・特になし  |
| 田中 | ・教員の採用について、専門性確保の観点から基準が設けられているか。  | 4     | ・学歴、業務経験等、担当科目により基準を設けて取り組めた。  | ・引き続きの方針で実施する。   |
|    | ・授業スキルの向上のため、校内職員研修会を充実させ、組織として「確かな学力」、「考える力」を育成するための授業づくりを推進し、学生への指導スキルの向上を目指したか。<br>・学生による授業評価(授業アンケート)の結果において、授業に対する積極性の向上は見られたか。<br>・授業アンケート結果を受け授業の見直しを行ったか。<br>・授業アンケートの活用方法について情報収集を行ったか。<br>・教員の外部講習会への参加がみられたか。 | 4     | ・平成29年度にシラバスの改定を行い、授業形態や具体的な詳細を明示した。<br>・授業アンケートは適正に実施され、回答率は前期95.1%、後期91.4%であった。また、各担当から結果のフィードバックも行われた。<br>・次年度に教員間の授業参観を企画するために、学生アンケート過去5年分の結果をまとめ、年度末のFD研修会として報告した。<br>・教員は積極的に外部講習会へ参加した。  | ・シラバスの改訂について、該当学生へアンケートを実施する。<br>・教員間の授業研究会(授業参観)を企画する。<br>・授業アンケートの活用方法について、教員にアンケートを検討する。<br>・教育関係各種講習会への参加計画を積極的に勧める。 |
|    | ・教員の指導力向上のための研修会の開催や外部機関での研修参加を促進することができたか。  | 4     | ・両学科ともH29年度の学会や各種研修会等へは非常に積極的な参加が見られた。PT学科は31の学会・研修会に述べ46名(昨年は16の学会・研修会にのべ48名)、OT学科は9の学会・研修会に31名(昨年は14の学会・研修会にのべ21名)の教員が参加した。  | ・引き続き、研修会の参加や学会発表を促し、必要に応じて報告会を実施する。   |
|    | ・非常勤講師との定期的な情報の共有を図っているか。  | 3     | ・年度替わりに次年度の「教務のしおり」を郵送し、確認をお願いしている。また、個々の教員が自分の教科の関連や担任として、非常勤講師との情報交換を実施している。   | ・29年度に引き続き、必要に応じてさらなる情報交換を図る。情報交換ツールを検討する。   |
| 瀬  | ・担任業務サポート業務のマニュアル化において、昨年度作成したマニュアルの検証を行ったか。<br>・そのマニュアルに調整を加え次年度の本実施に向けたものが完成したか。   | 4     | ・概ね実施された。  | ・適宜マニュアルの見直しを行い、より良い活動に促す。   |
|    | ・実習依頼がスムーズに行えたか。<br>・必要な実習施設の確保ができたか。<br>・回答結果、承諾書の集計と管理ができたか。<br>・実習施設からの申請書、契約書の管理ができたか。<br>・回答結果に対する公文書の送付がスムーズに行えたか。   | 4     | ・実習依頼、実習施設確保、承諾書の集計と管理、実習施設からの申請書、契約書の管理は概ね滞りなく実施した。<br>・回答結果に対する公文書の送付についてはトリプルチェックを行い、概ね滞りなく実施した。  | ・外部に発送する文書・提出する文書については、昨年同様にトリプルチェックを実施していく。<br>・実習地確保関連、厚労省への施設登録関連について、タイムスケジュールを確認し、業務のめりがないように留意する。                  |

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
平成29年度自己評価表

|    |      |  |   |   |  |
|----|------|--|---|---|--|
| 戸山 | 実習   | ・実習開始までに、厚労省への申請手続きが終了できたか。                          | 4 | ・今年度の厚労省への新規実習施設申請は、理学療法学科6件・作業療法学科8件の登録を行った。概ね滞りなく実施した。  | ・継続  |
|    |      | ・円滑な実習を実施できるような、指導者会議を企画・実施し、出席者数の増加や臨床教育の向上につながったか。 | 4 | ・滞りなく実施した。<br>・指導者会議参加率：3年次理学療法学科88.2%・作業療法学科76.1%、4年次理学療法学科76.9%・作業療法学科71.6%   | ・継続  |
| 水島 | 情報公開 | ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。                            | 3 | ・希望受験者・保護者には、授業を公開している。<br>・カリキュラム一覧表並びに授業風景、国家試験の合格率、就職率について本校HPおよびパンフレットにて公開している。<br>・授業アンケートの結果については、各科目担当者が学生にフィードバックを直接行うのみで、まだ公開はしていない。 | ・専門大学化の情報も取り入れ、授業アンケート結果及び対応などの公開を今年度検討する。 |

4. 教育成果

| 担当    | 評価項目   | H29評価  | H29達成状況  | H30に取り組むべき課題等   |   |
|-------|--|--|--|---|---|
| 田中    | 資格   | ・学生全員に障害者スポーツ指導員が認定されたか。                                       | 4  | ・H29年スポーツ指導者資格取得認定校の手続きを実施した。<br>・4年生全員の障害者スポーツ指導員の認定手続きを実施した。<br>・1年生全員の障害者スポーツ大会サポート実習(ボランティア)をとりまとめた。  | ・H30年スポーツ指導者資格取得認定校の手続き<br>・4年生全員の障害者スポーツ指導員の認定手続き<br>・1年生全員の障害者スポーツ大会サポート実習のとりまとめ  |
|       | 卒業研究   | ・卒業研究発表会において、研究の成果を質の高い形で発表できたか。<br>・卒業研究発表会において、円滑な会の運営ができたか。 | 4  | ・研究論文を作成する力が低下してきているため、研究手法や論文作成において教員による助言は多く必要ではあったが、滞りなく出来たと思われる。<br>・発表会は円滑で、質問も多く出された。   | ・研究手順や論文作成に関して、詳細かつ具体的な指導要綱の作成が必要である。<br>・具体的かつ詳細なスケジュールを提示し、進めている。   |
| 島田    | 国家試験   | ・国家試験における問題解説および分析を行い、国家試験についての対策(学生オリエンテーション、特別講義など)を図る。      | 4  | ・昨年度同様、国試問題携帯版を実施した。<br>・臨床実習終了後の11月より特別講義等実施した。<br>・国試学生担当者による面接を随時、実施。<br>・第53回国家試験結果は、PT:90.5%(新卒:91.5%、既卒:50.0%)、OT:84.2%(新卒86.1% 既卒50%)であり、全国平均であるPT:81.4%、OT:77.6%を上回る合格率となった。  | ・国家試験の傾向、対象学生の状況など、情報を整理して学生指導に反映される対策を検討していく。(現在、各学生の国家試験対策担当教員は、学習タイプを参考に割り振りを行った。)<br>・国試対策を4年生にのみ実施するのではなく、他の学年からも実施していく。<br>・特別授業の内容の検討                      |
|       | 卒業試験   | ・卒業試験において、趣旨に沿った選考基準が策定できたか。卒業判定が適正かつ公正に実施できたか。                | 4  | ・今年度より、3回の卒業試験を施行した。12月に一回目を行い早めの準備につながった。<br>・試験問題の精度向上のため、試験作成者に昨年度作成問題の正答率提示・難易度配分依頼を行った。また、今年度も卒業試験基準点を事前に決定した。<br>・今年度より専門基礎・専門の卒業試験問題を回収せず、復習する機会を与えた。正答も公開した。  | ・卒業試験問題作成時の依頼方法・問題校正作業の体制、合格基準等の検討は、継続して行っていく。<br>・1月は卒業試験と業者模試の試験日程が、タイトなので業者模試の日程と施行方法を検討する。  |
|       | 実力試験   | ・卒業試験・実力試験において、趣旨や時期に沿った試験問題を選考・実施できたか。学生の国家試験勉強進捗の指標になったか。    | 4  | ・今年度も引き続き業者模試を含め、年間13回の実力試験を実施し、無事終了できた。分野別の正答率(平均点を含め)を提示し、学生個々の苦手分野への指導ツールとして利用できた。   | ・実力試験においては業者模試に加え、前年度の卒業試験を行い、復習できる形態を検討する。<br>・1月は卒業試験と業者模試の試験日程が、タイトなので業者模試の日程と施行方法を検討する。   |
| 臨床実習  | ・「実習の手引き」等の内容を充実させ、学生のスムーズな実習領域の実現に役立つものとなったか。                                   | 4  | 【理学療法学科】( )昨年度<br>・1年見学実習:88名修了(80名修了)。<br>・2年次体験実習:合格80名、0項目あり0名(合格76名、0項目あり0名)<br>・3年次臨床実習:合格73名、0項目あり0名、未実施1名(合格87名、0項目あり2名、未実施1名)<br>・4年次臨床実習:合格86名、0項目あり0名(合格69名、0項目あり0名)<br>・横浜市立脳卒中・神経脊髄センターリハビリテーション部にご協力いただき4年次臨床実習に導入する「症例のまとめ」の使用状況について把握するために調査を行い、平成30年度臨床実習指導者会議において報告し意見交換を行った。<br>・3年生セミナー授業で「症例のまとめ」を導入し展開した。<br>【作業療法学科】( )昨年度<br>・1年見学実習:43名修了。(40名)<br>・2年基礎実習:介助技法の習得は、授業・実技を学内で実施。介護老人保健施設等での1週間の実習も37名修了。(37名)<br>・3年次臨床実習:対象学生38名(43名)中、合格30(34)名、不合格0(0)名、保留8(7)、中止0(1)、未実施0(1)。8名中、追加6名、学内3名;2名重複(昨年度8名;継続1名、追加4名、学内指導3名);実習終了<br>・4年次臨床実習:合格40名(追加実習者3名含む)(40名)、不合格者2名(2名)。<br>・生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進協力校A校として申請した。その基準を満たすように養成校に講演した。また基準指標として、MTDLPの臨床実習施設での使用が30%以上の目標は、結果 56%(50/80)で達成できた。 | 【理学療法学科】<br>・実習訪問時に「症例のまとめ」についての意見交換、使い方の指導を行い、実習指導時の使用に繋げる。<br>・協会が作成する「臨床実習の手引」改訂版の内容、従来からの変更点について把握し、対応を検討する。<br>【作業療法学科】<br>・今年度は生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進協力校A校その基準を満たすように、30%以上の実習施設でMTDLPを活用できるように臨床実習指導者に働きかける。  |   |
|       | ・臨床実習後の症例発表とグループディスカッションを通して、実習の振り返りや理学療法士・作業療法士としての今後の課題を学生自ら明確にしたか。            | 4  | ・終了後セミナー等で実習で得た知識、経験を共有した。<br>・実習で明らかになった課題等を個別面談で振り返りを行った。  | ・継続   |   |
| 中村・水島 | 留年・退学者防止   | ・強化組対策としての学習法の習得が再試験科目の減少につながったか。<br>・成績不良による留年・退学者数の減少ができたか。  | 4  | 【理学療法学科】<br>・1年生(20期生)の再試の平均数は0.94と昨年度(19期生)0.75とほぼ同様であった。留年者数は1年生(20期生)3名と昨年度(19期生)4名に対し微減したものの、その他に9名の退学者を出してしまった。成績不良以外にも精神的なものも含む体調不良や進路変更も多く、例年にならぬ結果となった。<br>・2年生(19期生)の再試の平均数は1.12と昨年度(18期生)1.08ほぼ同様、留年者数は2年生(19期生)4名と昨年度(18期生)2名に対して倍増した。<br>・3年生(18期生)は再試数は0.59と昨年度(17期生)の0.56と同数であった。ただし昨年度(17期生)は2名が定期試験、2名が臨床実習の単位未修得で退学に至っていたが、今年度は成績不良による退学者が1名のみであり、その数は減少した。<br>【作業療法学科】<br>・前期強化組対象の再試科目は、1年9名1.44(平均0.51)2年6名5.17(平均2.29)3年6名3.67(平均1.21)全学年で強化組対象の学生の再試科目数がクラス平均以上の結果となった。偏差値35以下は1年で3名、2年で3名、3年で3名で母集団からの変化はみられなかった。しかし、前期偏差値50以上が1年で1名、3年で1名と飛躍的な進歩がみられた。前年度からの偏差値比較では、1年平均39.78(比較なし)、2年36.12(留年者1名除く前年度平均39.32で-3.2)、3年35.90(留年者1名除く前年度平均33.23で+2.67)で、3年においてプラスの効果があった。<br>・後期強化組対象の再試科目は、1年7名3.86(平均1.60)、2年5名1.4(平均0.78)全学年で強化組対象の学生の再試科目数がクラス平均以上の結果となった。後期強化組対象の前期末試験結果からの偏差値比較では、1年平均34.7(前期平均34.0で+0.7)、2年平均43.0(前期平均41.4で+1.6)で、1・2年においてプラスの効果があった。個別には、強化組対象で後期偏差値が前期偏差値を上回ったものがほとんどであったが、1年2名(退学)、2年1名(進級)が低下し、2年1名においては個別に対応している。 | 【理学療法学科】<br>・学力低下者に対する強化組対策は継続強化する。<br>・精神的なフォローを含めた1年次個別面談を強化する。<br>・国家試験対策として行っていた解剖・生理、専門科目について、低学年から補講を行う。<br>【作業療法学科】<br>・強化組対策または早期の国家試験対策(放課後教室)を本年度も実施する。 |
|       | ・退学率の目標を設定しているか。またその成果は十分か。<br>・退学率の低減策が教職員に共有されているか。<br>・留年・退学結果について検証・報告を行ったか。 | 1  | ・平成29年度は、留年率PT3.2%(昨年度3.7%)、OT6.2%(3.5%)・退学率はPT4.7%(3.09%)、OT3.1%(7.1%)であり、目標とした3%・4%以内に留まらなかった。   | ・退学率・留年率の数値目標3%・4%以内を継続する。  |   |
|       | 卒業生  | ・卒業生の社会的活躍や評価を把握しているか。   | 4  | ・各関連学会、学会誌等で卒業生の動向を把握し、学校説明会において紹介した。<br>・概論の授業では、障害者スポーツに関して実技も交え講演してもらっている。   | ・継続   |

5. 学生支援

| 担当 | 評価項目 | H29評価 | H29達成状況 | H30に取り組むべき課題等 |
|----|------|-------|---------|---------------|
|----|------|-------|---------|---------------|

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
平成29年度自己評価表

|    |           |   |   |   |   |
|----|-----------|---|---|---|---|
| 田中 | 社会性       | ・挨拶や服装、遅刻など基本的な生活習慣の確立、社会性・公共性を育む指導・支援ができたか。<br>・様々な教育活動において、社会人・医療人としての精神の育成に向けた支援ができたか。<br>・学習状況実態調査で学生全体の生活習慣や学習環境を把握できたか。<br>・実習で指摘された社会性(情意面)についてまとめ、その結果を支援に生かすことができたか。 | 2 | ・年度初めは、新入生に社会性や公共性に欠ける言動の学生が散見されるため、基本的な生活習慣と社会性について指導した。また、実技授業等においても随時社会人・医療人としての資質の育成・向上に向けて指導を行った。<br>・障害者スポーツ大会サポート実習(ボランティア)にて、不適切な言動がみられたと報告を受けている。担当の非常勤講師および担任より注意喚起・指導を行った。<br>・外部での解剖学実習にて、担当講師の指示を聞いておらず不適切な言動があった。   | ・基本的な生活習慣と社会性については継続した指導を行う。担任からの指導だけでなく、学年全体に周知徹底する機会を増やす等、学生の変化に応じて方法を検討する。<br>・マニュアル的な獲得にならざるを得ない学生も在籍するため、より個別性を重視した指導を行う |
|    |           | ・学園祭などの活動において学生が主体的に活動し、リーダーシップやコミュニケーション能力などの育成に向けた支援ができたか。<br>・学校行事の充実に向けた支援ができたか。また、参加率が90%以上に到達したか。   | 4 | ・学生がより主体・主導的に動けるよう支援したが、準備(企画書の提出遅れ)や片付けで不備が見られた。また、教員主催で地域作業所の出店は昨年度に引き続き企画し、日曜日は成果発表大会の「つなぐカフェ」の実施をした。<br>・日曜日は天候が大荒れとなり、開催時間や学生の帰宅時間を早めるなどの対応があった。急な変更ではあったが大きなトラブルはなく実施できた。本部への連絡もスムーズにできた。<br>・学園祭時間内の出店が実施されてない所があった。次年度徹底していけるよう方法については検討する。<br>・学生の参加率はどのクラスも90%以上であった。 | ・学園祭での地域作業所の出店や「つなぐカフェ」は次年度も継続して行い地域貢献を広げていきたいと考える。<br>・学生が主体的に楽しめる学園祭を支援すると共に、基本的に遵守しなければならない事項等の徹底を図る。                      |
| 机  | 行事        | ・効率よく行事が運営できるよう、全体の年間予定表・各行事のマニュアルの再調整を行い、業務の連携及び効率化を図れたか。  | 4 | ・各行事における責任の所在を明確にしたが、当日の運営責任者や係担当が曖昧になることがあった。しかしながら係内で連携し各行事ともスムーズに滞りなく実施できた。<br>・業務全体の流れを一覧にし、年間を通して見えるようにした。その都度、書き換えている。準備作業の時期が年々早くなってきている。  | ・滞りなく進められるようこれまで以上に教務部及び事務局との連携を強化する。<br>・合同卒業式に向けた準備を本部と連絡をとり実施する。入学・進級式など行事が重なるため本部調整と学校内部調整と分担し取り組む。                       |
|    |           | ・学生の情報交換を定期的に行い、心身の健康問題への適切な対応ができたか。  | 4 | ・定期的な面談に加え、必要に応じ随時面談を実施している。各学科会議でも情報を共有し対応策を検討する中で、必要に応じてはスクールカウンセラーの利用を促すなど心身の健康問題等への適切な対応を行った。<br>・週1回学科会議にて定期的に学生に関する情報交換を行っている。  | ・特になし   |
| 中村 | 個別指導      | ・学生の面接・面談の記録があるか。   | 4 | ・学生カルテを作成し、学生のプロフィール・緊急連絡先及び面接の記録、臨床実習の記録を保管している。   | ・特になし   |
|    |           | ・就職・進路について相談できる担当者がいるか。   | 4 | ・担任、国試担当教員、就職指導職員が対応にあたった。  | ・特になし   |
|    |           | ・学生の健康診断を定期的に行っているか。  | 4 | ・年1回実施(平成29年度は3/31実施)   | ・年1回実施(平成30年度は4/4に実施)   |
| 宮野 | 健康管理・防犯   | ・犯罪・薬物・消費トラブル等の指導を行っているか。   | 4 | ・4/24薬物乱用防止セミナー実施した。  | ・特になし(平成30年度は4月24日実施予定)   |
|    |           | ・就職指導支援体制整備<br>・就職内定率目標(年内60%・年度内100%)の達成<br>・学生の就職希望データベース化<br>・既卒者対象求人情報データベース化   | 4 | ・年内内定率(PT:62.9%、OT:63.4%、全体63.1%)目標達成<br>・年度内内定率(PT:100%、OT:100%、全体:100%)   | ・引き続き、年内内定率60%、年度内内定率100%の達成に向け、教員と就職指導担当との連携をより高め、国試対策の進捗が順調な学生から早期内定を促していく。<br>・合同就職説明会の実施は8月、10月を予定                        |
|    | 災害対策      | ・災害対策マニュアルを整備し、災害発生時の指導を行っているか。<br>・万が一に備え、保険加入しているか。   | 3 | ・戸塚消防署の協力にて避難訓練ならびに教職員に対する通報訓練実施。<br>・安全確認メーリングリストを整備。<br>・災害時用食料、防寒具を備蓄。<br>・災害対策マニュアルが本校の実態に即しているかについては引き続き精査が必要。<br>・「東戸塚駅周辺混乱防止対策連絡協議会」設置にかかわる連絡会に参加。<br>・通学時・学内外の実習においての賠償責任保険に加入している。   | ・災害対応マニュアルは継続して関連部署と検討中である。   |
|    |           | ・奨学金等の経済的支援があるか。<br>・学費減免、学費分納制度があるか。   | 4 | ・日本学生支援機構奨学金に対応、岩崎学園奨学金を整備。<br>・新たに給付型である岩崎ともみ奨学財団設立。経済的に厳しい学生を支援<br>・入学時および定期試験にて特待生選抜を行い、学費等の減免を行っている。<br>・学費分割納入を制度として実施。  | ・引き続き実施していく。  |
|    | 経済援助・活動援助 | ・保護者への情報提供は行われているか。   | 4 | ・保護者への便り(成績、出欠状況等を前期・後期期末時に送付)  | ・引き続き実施していく。  |
|    |           | ・同窓会はあるか。<br>・卒業生へ学校情報を提供しているか。   | 2 | ・同窓会はある。<br>・卒業生を講師として本校の学園祭に合わせ公開講座を実施した。  | ・引き続き同窓会活動を支援していく。  |
|    |           | ・クラブ活動を支援しているか。   | 4 | ・フットサル・ボランティア・バスケットボール・野球・陶芸・バレーボール・バトミントン・テニス・チャリティー等の活動を顧問、補助金で支援している。サークルで活用するロッカーも必要に応じて割り当てて使用できるようにしている。  | ・特になし   |

6. 教育環境

| 担当 | 評価項目  | H29評価 | H29達成状況  | H30に取り組むべき課題等   |
|----|---|-------|--|---|
| 宮野 | ・教室の数・広さ、実習室の数・広さは教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。                | 4     | ・実習室の数、広さについては養成校設置基準に準拠している   | ・特になし   |
|    | ・教室以外に休憩スペースが適切に置かれているか。<br>・食堂や運動施設など教育環境を補完する施設が整備されているか。 | 4     | ・地下一階に学生ホール完備。各フロアに休憩スペース完備。<br>・体育館、箱根研修所、岩崎ミュージアム(コンサートホール)所有。   | ・特になし   |
|    | ・校舎全体およびAV機器等の経年劣化に随時対応する。                                  | 4     | ・校内の蛍光灯を順次LEDに変更した。<br>・視覚教室機・椅子の経年劣化に対応し入替を実施した。  | ・引き続き蛍光灯のLED化を実施<br>・教室のブラインドを改修予定  |
|    | ・自宅学習を奨励するための設備を提供しているか。                                    | 4     | ・全学生ノートPC(ソフト)貸与し、導入時に最新の環境を提供している。<br>・文献検索データベースの法人契約を行っている。<br>・スマートフォンを利用した国家試験対策教材の解説を作成した。<br>・3D解剖ソフトを導入した。   | ・引き続き実施する   |
| 杉山 | ・図書室利用者数の増加ができたか。<br>・蔵書を増加したか。<br>・図書室を整理し使用しやすい環境設定ができたか。 | 3     | ・教職員、学生より蔵書希望のアンケートを実施。蔵書の増加発注を行い、平成30年3月に納入済みである。平成28年度より蔵書の図書室内管理を開始しており、平成29年度も新規発注分、蔵本を含めると130冊の蔵書増加ができた。平成30年3月現在、図書室保管の文献数は3,725冊である。<br>・分野別に分けて図書室内蔵書の数量確認を実施した。 | ・図書活用を推進するために、新規購入蔵書について周知を行い、蔵書利用者数の増加を図る。<br>・引き続き図書室保管蔵書の整理、在庫確認を実施する。 |
|    | ・WEB利用者数は増加したか。<br>・メディカルオンラインの利用者数は増加したか。また、適正に利用できたか。     | 4     | ・メディカルオンラインの利用については、適正利用された。   | ・メディカルオンラインの利用については、引き続き適正利用と利用者増加を促す。                                    |
|    | ・最新機能を備えた機器、実習室などは整備されているか。                                 | 3     | ・「養成校備品・設備施設基準」に基づいて保有点検をした際、各実習室の機器、備品の整備を実施した。   | PT・OT養成施設指定規則の改訂に応じた変更について対応していく。   |

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
平成29年度自己評価表

|    |   |   |  |                    |
|----|---|---|--|--------------------|
| 備品 | ・各種マニュアル作り、破損・危険箇所への安全対策や備品の修理・新規購入が迅速に行われたか。 | 4 | ・教務室内、倉庫内(2階、3階)を中心に物品の点検・整理を実施、不足品、欠品については、修理・補充を行った。 | ・備品の不足、破損に迅速に対応する。 |
|----|---|---|--|--------------------|

7. 学生募集

| 担当 | 評価項目   | H29評価 | H29達成状況   | H30に取り組むべき課題等  |
|----|--|-------|---|--|
| 宮野 | ・学生募集計画があるか。また成果は十分か。                                      | 3     | ・H30年度生はPT学科で定員超過、OT学科で定員不足が発生した。<br>・3月にOTの追加入試を実施した。  | ・定員の充足はもちろんのこと、定員超過にも十分注意する。<br>・昨年度の振り返りを基に募集計画の変更について検討する。 |
|    | ・入学案内書には以下の内容が明示されているか。<br>育成人材像、目指す資格・検定試験、学費・教材費、入学者選抜方法 | 4     | ・「入学案内書」「学生募集要項」に明示。  | ・特になし  |
|    | ・入学に関する問い合わせに適切に対応できる体制ができていますか。                           | 4     | ・入試事務局が対応。<br>フリーアクセス0800-800-4508<br>infoyocr@iwasaki.ac.jp<br>・希望に応じて個別相談実施。  | ・引き続き対応していく  |
|    | ・学校説明会等において入学情報を提供できているか。                                  | 4     | ・「学校説明会」年間6回開催。<br>学校紹介・各学科紹介・教員紹介・職業講話・入学説明・校舎案内を実施。<br>・「進学説明会」年間1回開催。<br>・保護者向け、高校既卒者向け等、状況に合わせた説明会を実施した。<br>入試面接対策講話・入試情報・分析、個別相談を実施。 | ・引き続き高校生向け、保護者向け、進路指導教員向けイベントを実施していく                         |
|    | ・体験授業等で入学後の自分をイメージできるイベントを開催しているか。                         | 4     | ・「ビギナーズリハビリ体験ゼミ」年間8回開催。<br>・例年実施している「病院見学」については協力予定施設にてインフルエンザ流行のため延期。後日再度日程調整。<br>・新規で短時間で校舎見学と体験が可能なオープンキャンパスを実施した。                     | ・引き続きイベントを実施していく。  |
|    | ・入学辞退者の授業料返還が適切に処理されているか。                                  | 4     | ・手続きについては「学生募集要項」記載。<br>・平成30年度生は入金後の辞退者はいなかった。   | ・引き続き適正に対応していく。  |
|    | ・入学予定者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。                     | 4     | ・「プレップゼミ」として入学前に4回の入学前講座を開催した(在校生がアシスタントして参加した)<br>・入学ガイダンス(3/31・4/4)、オリエンテーションを実施。(学生生活、授業内容、学習方法、PC操作などを指導)                             | ・引き続き「プレップゼミ」を開催していく。<br>・入学ガイダンス(4/3)、オリエンテーションを実施済み。       |

8. 社会貢献

| 担当 | 評価項目                              | H29評価 | H29達成状況  | H30に取り組むべき課題等                                   |
|----|-----------------------------------|-------|--|---|
| 宮野 | ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 | 4     | ・高校生向け講座:「仕事のまなび場」(夏休み2講座)・小中学生向け講座:「小中学生のためのチャレンジスクール」を実施した。<br>・職能団体の技能研修会等開催のため、実習教室が活用された。<br>・高校等からの依頼による出張授業に参加した。 | ・ソフトとしての人的資源とハードとしての施設等の資源の活用を引き続き図っていく。        |
|    | ・学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか。    | 4     | ・学外者と学生との事故も想定し、安全確保を図りながら、学校休業日に教室・体育館を貸し出している。<br>・地域の老人クラブイベントに施設を提供している。<br>・後述の「つなぐカフェ」にて玄関ロビーを開放している。              | ・学校施設の利用については、地域の社会資源として活用を促していく。               |
|    | ・ボランティアなどの社会活動に参加しているか。           | 4     | ・県との包括協定にて各種スポーツイベントへボランティアとして参加<br>・横浜市主催のスポーツイベントに参加<br>・近隣小学校夏祭りボランティア  | ・本年度も主催団体よりボランティア参加の依頼が届いており、積極的に参加予定           |
|    | ・地域に対する公開講座などを主催しているか。            | 4     | ・OT学科3年生が中心となり、「つなぐカフェ」を3回実施している。<br>・田口垂季さん(パラリンピック、射撃日本代表)をお招きしオープンカレッジ開催(9/27)  | ・本年度も「つなぐカフェ」を実施予定<br>・オープンカレッジは、保育校との合同開催を計画中。 |

9. 法令等の遵守

| 担当   | 評価項目   | H29評価 | H29達成状況   | H30に取り組むべき課題等  |
|------|--|-------|---|--|
| 林副校長 | ・法令や専修学校設置基準を遵守しているか。  | 3     | ・所管の神奈川県へ学則変更等届出実施、現況調査(学生数・教職員数・卒業状況等)実施した。  | ・平成30年度は、PT学科で1人の定員超過、OT学科で5人の定員不足の新入生を迎えることとなった。<br>・定員の適正化を図る。                                       |
|      | ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。   | 4     | ・個人情報保護規程を文書化。「学生募集要項」記載。   | ・作業中の書類等の管理に注意する   |
|      | ・自己点検・自己評価を定期的に行い、問題点の改善につとめているか。  | 4     | ・自己評価は、学校運営の一部(授業アンケート、保護者アンケート、教職員の自己評価等)となっていた。平成24年度より「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、本形式にて実施している。 | ・PDCAサイクルの徹底に努める   |
|      | ・理学療法教育施設評価(第三者評価)受審対策に向けた情報収集を行ったか。<br>・世界作業療法連名(WFOT)の「作業療法士教育の最低基準」の条件に満たしており、認定校として登録させているか。 | 4     | ・平成29年度は、特になし   | ・2017年4月1日～2022年3月31日までWFOT並びにリハビリテーション教育評価機構による認定が有効となっている。<br>・2022年に再受審予定<br>・指定規則の変更に伴う情報の情報収集に努める |
|      | ・自己評価結果を公開しているか。   | 4     | ・公開中。   | ・引き続き公開していく  |